

観光英語（13）：観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、 鳥取砂丘に見られる案内板の英語

福島 一人

Tourism English (13) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites in Japan, the *Nijou-jou* [-castle], the *Enryaku-ji* [-temple], *Ama-no-hashidate* [sandbar], and *Tottori-sakyuu* (sand dunes)

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

Following Fukushima (2016.1), (2016.7), (2017.1) and (2017.7), this paper, as a case study, examines the English signs found on signs in the popular tourist sites, such as the *Nijou-jou* [-castle], the *Enryaku-ji* [-temple], *Ama-no-hashidate* [sandbar], and *Tottori-sakyuu* (sand dunes).

The signs discussed here are also those which indicate the general summarized information about these sites. If there are no such signs or if descriptions on such signs are thought to be inadequate, the present writer's suggestions will be added.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7) and (2017.1).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)} 充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるであろう。

事例報告として、本稿で検討を加える案内板は、当該観光名所の「包括的説明」を行う英語案内板（「総合案内板」）である。現地に存在しない場合、提案する。

まず、世界遺産登録されている、京都市の「二条城」の「総合案内板」について、次に、京都府大津市の「延暦寺」のものについて検討を加える。福島(2017.1)、(2017.7)で挙げた例と同様、「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」が「総合案内板」に相当する。そして、「英語総合案内板」に相当するものが存在しない京都府宮津市の「天橋立」、鳥取県鳥取市の「鳥取砂丘」のものについて提案を行う。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、福島(2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)

で挙げた提案に従う。

2. 二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘の案内板

福島 (2017.1)、(2017.9) では、京都市内の観光名所である「清水寺」、「鹿苑寺」、「慈照寺」、「龍安寺」、「仁和寺」、「賀茂御祖神社」、「賀茂別雷神社」の案内板に検討を加えてきた。京都市に見られる案内板に検討を加えたのは、京都市がアメリカの旅行雑誌、*TRAVEL+LEISURE* も旅行で訪れたい都市の1位に評価しており、また、外国人向け観光パンフレットを作成した先駆的な都市であるからである。さて、これら観光名所に見られる、図面、日本語説明と英語説明という共通した構成から成る案内板は、京都市作成のものである。日本語説明、英語説明共に、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」から成る。「本文」の部分が本稿で対象とする「包括的説明」を行う案内板に相当する。世界遺産登録以前に京都市により作成された案内板も見られるが、木製の案内板であるので風雨の影響を受けてきており、ほとんどのものが読みにくい。

本稿で挙げる「二条城」は京都市作成のものである。「延暦寺」は京都府大津市作成のものであるが、京都市作成のものと同じく、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」から構成される。

京都府「天橋立」、鳥取県「鳥取砂丘」は、以上のような構成をとる案内板は存在しない。これまで執筆者が提案してきた「包括的説明」を行う案内板（「総合案内板」）に合わせて、本稿では提案する。尚、案内板の画像は二条城の2016年2月撮影のものを除き、2016年12月以後のものである。

2. 1 二条城

1



2



画像1は、二条城の国宝、「二の丸御殿」である。「二の丸御殿」の「玄関」、「遠侍（とおごむらい）」、「式台」、「大広間」が見える。「天守閣跡」を含む「本丸」が存在するが、二条城では、「二の丸」の建造物や庭園のほうが歴史が古く、一般的には二条城を代表するものとして有名である。現在の「本丸御殿」は、旧桂宮御所を明治になり移したものである。ところで、多くの外国人は「...城」といえば、復元されたものでも「天守」が存在すると思っているようであり、二条城は若干拍子抜けするようである。画像2は二条城の「包括的説明」を含む案内板である。福島 (2017.1)、(2017.7) で挙げたものと同様、世界遺産登録されている京都市内の観光名所に対する京都市作成のものである。1、2共に、2016年2月19日に本稿執筆者が撮影したものである。

2の「世界遺産登録」、「登録年月日」、「包括的説明」を含めた案内板は、「東大手門」の発券所を抜けた付近に存在する。本稿でも、「包括的説明」を行う部分を「本文」とする。

本稿でも、福島(2017.1)、(2017.7)に順じ、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」を含めた案内板の、「本文」中の英語を中心に論じる。

2の日本語説明と英語説明は内容が一致する。「世界遺産登録」と、「登録年月日」の記述は、福島(2017.1)、(2017.7)で挙げたものと同様、当該観光地の名称以外共通している。

3は、本丸入り口付近に見られた二条城の全体図である。城郭内には記すべきことが多いように思われる。しかし、2の日本語、英語説明共に、本文の情報が「二の丸御殿」にやや偏っていると言えよう。因みに、英語説明の、「世界遺産登録」と「登録年月日」を除いた、「本文」は242語である。



日本語説明は、以下の通りである。福島(2017.1)、(2017.7)に順じ、「世界遺産登録」と「本文」の書き出しである「二条城」の文字サイズを大きくし、太字にすること、日本人観光客のためにも、「振り仮名」を加えることを提案する。

二条城(にじょうじょう)は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

二条城は、慶長8年(1603)に徳川幕府により京都御所の守護と将軍上洛の時の宿泊所として造営され、その後寛永3年(1626)に大規模な拡張・修復工事が行われました。現在の二の丸御殿は基本的にはこの時のもので、このほか本丸内には弘化4年(1847)に造営された旧桂宮(かつらのみや)御殿が移築されています。

二の宮御殿は武家風書院造を代表する建築で、その主要部は遠侍(とおざむらい)及び車寄(くるまよせ)、式台、大広間、蘇鉄の間、黒書院、白書院の各殿舎からなり、これらが二の丸庭園の池に沿って雁行(がんこう)形に配されています。内部は、床の高さや天井の形態、座敷飾り等によって各室に差異をつけながら配されており、また各室は部屋の目的に応じて障壁画が描かれ、欄間彫刻、飾り金具、釘隠し等が豪華に飾られるなどの意匠が凝らされています。

この御殿の西に大広間から眺められるように造られた二の丸庭園は池泉廻遊(ちせんかいゆう)式の庭園で、池の法面(のりめん)や護岸に多くの豪華な石組を配するとともに、池の中に3つの島、奥に三段の滝を設けており、その力強い意匠は豪壮な建築群とよく調和しています。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3段落9文、242語からなる。「本文」中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Nijo Castle is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Nijo Castle was built by Tokugawa shogunate in 1603 for the defense of the Kyoto Imperial Palace and to serve as an official residence for visiting shoguns.¹ It was greatly expanded and renovated in 1626.² The present Ninomaru Palace, in the Ninomaru or secondary enclosure, essentially dates from that period.³ The former Katsura-no-miya Palace, built in 1847, was removed from its original site and rebuilt in Nijo Castle's Honmaru or main enclosure.⁴

The Ninomaru Palace is an excellent example of the *buke shoin-zukuri* of residential architecture.⁵ Its principal buildings, known as the Tozamura, the Kuruma-yose, the Shikidai, the Ohiroma, the Sotets-no-ma, the Kuro Shoin, and the Shiro Shoin, are laid out in a diagonal configuration along the pond in the Ninomaru Garden.⁶ Each room inside these structures is distinguished by its own unique features, such as the height of its floor, the form of its ceiling, the details of its design, and so forth; and the rooms are magnificently adorned, each according to its intended use, with exquisitely painted walls and doors and with carved transoms, ornamental metalwork, nail-head coverings, and so forth.⁷

To the west of the palace, overlooked by the Ohiroma, is the Ninomaru Garden, composed in the *kaiyu* or "circuit" style garden.⁸ With striking rock arrangements on the banks of its pond, with three islands in the pond itself, and with a three-tiered waterfall beyond, this garden's dynamism of design accords well with the grandeur of the palace buildings.⁹

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

福島 (2017.1)、(2017.7) で挙げた京都市作成のものと同様、各段落の書き出しでは、日本語説明では1文字分、英語説明では3文字分スペースを空けていることには賛成できる。

日本語説明、英語説明共に、「二条城」を主語としており、「二条城」が表題とされることである。しかし、両説明共に、「二の丸御殿」と隣接する「庭園」の説明が多い。「二の丸」を表題とした独立した案内板を設置し、その中に記すべきである。つまり、2の案内板では、「本丸」についてはほとんど触れられていない。また、城の代表的な建造物である「天守」の焼失について全く言及されておらず、問題である。

英語説明の原文について加筆・修正を行う。提案した英語説明に合わせ、日本語説明を修正すべきである。原稿枚数が制限されているので、本稿では日本語説明の修正案を記さない。

最初の「世界遺産登録」の記述について、これは福島(2017.1)、(2017.7)で挙げた建造物のものと文体は同じである。日本語学習者のために“*jou*”が“*castle*”であることを明示し、「二条城」を“The *Nijou-jou* [-*castle*]”と表記し、文頭に置く。最後の“for the benefit of all of mankind”をより簡単に“for the benefit of people all over the world”とする。以下の通りとすることを提案する。

The *Nijou-jou* [-*castle*] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

2. 2の「延暦寺」もこの修正案に準じる。

副題として、「天守無き城郭——江戸時代、京都守護と将軍の宿泊場所」のようなものを提案しようと思ったが、天守が復元されていないことは、外国人観光客に対して印象が悪いと思われる。従って、記さないこととした。

本文について検討を加える。部分的に情報を削減、追加する。

原文の第一段落は、4文から成る。

原文1について、“for the defense of the Kyoto Imperial Palace...”を“to defend the *Kyoto Goshō* (Imperial Palace)...”とto不定詞を使用し、「京都御所」を明示し、平易にする。原文2はそのまま使用する。原文3と4は、「二の丸御殿」と「本丸御殿」の説明となっている。本稿では、それらの説明の前に段落を分け、画像3を掲載し、「城郭全体の構成素」を説明する。第二段落で「堀」、第三段落で「郭(くるわ)」、第四段落で「本丸内の天守その他建造物の焼失」、第五段落で「二の丸御殿」、第六段落で「二の丸庭園」についての概略を記す。「天守」について、「焼失して以来、復元されていない。」を加える。

第二段落原文5、6、7の「二の丸御殿」の詳しい説明は、「二の丸御殿」を表題とした案内板を独立させて設置し、そのなかで記述することを提案する。「二の丸御殿」、「二の丸庭園」について、「御殿」、「庭園」を“*Goten*[Palace]”、“*Teien*[Garden]”とする。

第三段落の原文8について、「二の丸庭園」を文頭にする。そして、「池泉回遊式庭園」を文を分け明確にする。“The *Nino-maru Teien* is laid out to the west of the *Ni-no-maru Goten* so that it can be overlooked by the *Oohiroma*. The garden is the *chisen-kaiyuu-shiki* [-*style*]*teien* (garden with a path around a central pond).”とすることを提案する。原文9の「その力強い意匠は豪壮な建築群とよく調和しています。」“this garden’s dynamism of design accords well with the grandeur of the palace buildings.”は、「二の丸庭園」にだけ入っている作成者側の感想であるので、削除する。他とバランスをとるため、また、本文の語数を250語程度に収めるためにも、削除する。

二条城の、修正案を加えた「世界遺産登録」本文の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。画像3と1を“General View of the *Nijou-jou*”、“*Ni-no-maru Goten*”として加えるのが

よいと思われる。本文の修正案の語数は246語である。「本丸」、特に「天守」の記述を追加したが、原文の242語とほとんど同じ語数である。「登録年月日」については原文のままである。

The *Nijou-jou* [-castle] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The *Nijou-jou* [-castle] was built by the Tokugawa shogunate to defend the *Kyoto Gosho* (Imperial Palace) and to serve as an official place of stay for shoguns. It was extensively expanded and renovated in 1626.

General View of the *Nijou-jou*



There are two *hori* [moats], the *soto-bori* (outer moat) surrounding the whole castle, and the *uchi-bori* (inner moat) surrounding the *hon-maru*.

There are two *kuruwa* [enclosures], the *hon-maru* (main enclosure), or the last defensive area, and the *ni-no-maru* (second enclosure).

There used to be the *tenshu* (castle tower) in the *hon-maru*, but it was burnt down by lightning in 1750, and has remained unreconstructed since then. The *Hon-maru Goten* [Palace] and *yagura* [towers] in the *hon-maru* were destroyed by fire in 1788. The present *Hon-maru Goten* was originally the *Katsura-no-miya Goten*, built in 1847, and was relocated to the *Nijou-jou*'s *hon-maru*.

Ni-no-maru Goten



The present *Ni-no-maru Goten* basically dates from 1626, and is evaluated as an excellent example of the *buke-shoin-dzu[du]kuri* style of residential architecture. It consists of the six buildings, the *Toozamurai*, the *Shikidai*, the *Oohiroma*, the *Sotetsu-no-ma*, the *Kuro-shoin*, and the *Shiro-shoin*. They are interconnected in that order, and laid out in a diagonal configuration along the pond in the *Ni-no-maru Teien* [Garden].

The *Ni-no-maru Teien* is laid out to the west of the *Ni-no-maru Goten* so that it can be overlooked by the *Oohiroma*. The garden is the *chisen-kaiyuu-shiki* [-style] *teien* (garden with a path around a central pond) . It has striking rock arrangements on the banks of its pond.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

前述したが、勿論、英語説明に合わせ、日本語説明も加筆・修正するべきと思われるが、原稿枚数の制限のため、本稿では省略する。

2. 2 延暦寺

4



5



画像4は、延暦寺で最も有名な国宝の「根本中堂」である。画像5は、「包括的説明」を含む案内板である。福島(2017.1)、(2017.7)で挙げたものと同様、世界遺産登録されている京都市内の観光名所に対する京都市作成のもの、記述の構成が共通している。但し、「大津市」作成とされている。4は2009年10月31日、5は2017年3月22日に本稿執筆者が撮影したものである。

5の「世界遺産登録」、「登録年月日」、「包括的説明」を含めた案内板は、「根本中堂」の傍ら、「伝教大師童形像」の横に存在する。驚いたことに、バス停や駐車場が存在する入場口付近には見られない。「根本中堂」の説明が多いためであろうか。

延暦寺についても、福島(2017.1)、(2017.7)に準じ、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」を含めた案内板の、包括的説明を行う「本文」中の英語を中心に論じる。

5の日本語説明と英語説明は内容が一致する。「世界遺産登録」と、「登録年月日」の記述は、大津市作成のものとしてされているが、福島(2017.1)、(2017.7)で挙げたものや本稿の二条城と同様、当該観光地の名称以外共通している。

日本語説明は、以下の通りである。原文は大津市作成のものである。文体などは京都市作成のものと同通している。勿論、「世界遺産登録」の記述の中では、「古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)」と、「宇治市・大津市」を加えている。(英語説明も同様である。)京都市作成のものより異なり、適所で漢字の上に振り仮名が記されている。京都市作成のものより親切と言えよう。本稿では漢字の後に()内に記す。福島(2017.1)に順じ、「延暦寺」の文字サイズを大きくし、太字にすること、(えんりやくじ)を入れることを提案する。

延暦寺(えんりやくじ)は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたことに

なります。

延暦寺は、日本に天台宗（てんだいしゅう）を伝えた最澄（さいちょう）が、平安京の鬼門鎮護のために建立した比叡山寺に始まり、後に法然（ほうねん）、栄西（えいさい）、親鸞（しんらん）、道元（どうげん）、日蓮（にちれん）ら、日本の仏教各派の始祖となった高僧を世に送り出した、修行の寺です。

10世紀後期には、現在のように東塔（とうとう）、西塔（さいとう）、横川（よかわ）の三地域を中心に堂舎が整備され、興隆していました。その後、火災のたびに再建が繰り返されてきましたが、とくに元亀2年（1571）には、伽藍の大半が兵火により焼失しました。

総本堂である根本中堂（こんぽんちゅうどう）は、寛永19年（1642）に再建されたものが現存しており、平面は正面11間、側面6間の規模で、正面寄り1間通りの外陣（げじん）、その奥1間通りの中陣は板敷とするのに対して、背面寄り4間の内陣（ないじん）は土間石敷（どまいしじき）として3基の宮殿（くうでん）を安置し、小組格天井（こぐみごうてんじょう）を張って格式的に仕上げられています。こうした形態と規模は、平安時代まで遡ると考えられていますが、架構（かこう）や細部は和様（わよう）を基調として、江戸時代前期の趣を示しています。

このほか、三地域には17世紀までの堂舎が残されており、当時の伽藍の状況を伝えています。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
大津市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、4段落10文、317語からなる。「本文」中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Enryakuji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto (Kyoto, Uji and Otsu Cities). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Built by Saicho, the founder of the Tendai sect of Buddhism, as a temple to guard the Heian-kyo capital against the negative influences thought to enter from the northeast, and originally known as Hieizan Temple. 1 Enryakuji Temple developed into a center of monastic discipline that produced numerous great monks who founded important Japanese Buddhist sects : men such as Honen, Eisai, Shinran, Dogen, and Nichiren. 2

By the latter half of the 10th century, Enryakuji Temple was a flourishing temple, with its temple buildings configured much as they are today, centered around three principal tracts known as the Toto (East Pagoda), Saito (West Pagoda), and Yokawa tracts. 3 The temple was ravaged by fire on several occasions thereafter, but was rebuilt each time ; the worst such damage occurred in 1571, when Enryakuji was put to the torch in the course of a military campaign, and lost most of its temple buildings. 4

The main hall for the entire temple complex is the Kompon Chudo, reconstructed in 1643. 5 At ground level it measures 11 bays (a bay is the distance between two pillars) across the front and 6 bays front to back. 6 The front part of the building contains the outer worship hall (gejin), measuring 1 bay from front to back, and

the plank-floored inner worship hall (chujin), also 1 bay deep, while the sanctuary (naijin), at the rear of the building, measures 4 bays in depth and has a flagstone-paved earthen floor.⁷ Thus the building, in accordance with precedent, houses three distinct halls with finely coffered ceilings.⁸ This form and scale hark back to the Heian period (794-1185), whereas the wayo or Japanese-style tone implicit in the building's structural framework, and in the details of its workmanship, create an early Edo-period (1603-1867) feel.⁹

The temple's three tracts contain numerous other buildings dating as late as the 17th century, and these imbue the temple grounds with the aura of that period.¹⁰

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Otsu City

京都市作成のものと同様に、各段落の書き出しでは、日本語説明では1文字分、英語説明では3文字分スペースを空けていることには賛成できる。

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」の記述について、日本語説明、英語説明共に、「歴史：延暦寺の誕生、「売り」：日本仏教各派の始祖を輩出」→「歴史：「三地域」の完成・1571における焼失」→「現在：現存する総本堂である1642年に再建された〔根本中堂〕と詳細」→「現在：三地域に現存する堂舎」の順に記述している。尚、福島(2017.7)で挙げた、京都市が作成した、「仁和寺」や「賀茂別雷神社」の案内板が、「正面7間、側面5間」などの英語訳を避けている。しかし、大津市作成の「延暦寺」においては、英語説明では、「間(けん)」を「柱と柱の間の距離」「bay」とし、英訳している。日本語説明中の振り仮名と同様、京都のものより読み手に対して親切と言えよう。

記述順は、篠田(2014)における、「時間順」である。作成者が歴史面に重点を置き説明していることがわかる。「古都京都の文化財」のひとつとして、世界遺産に登録されているので当然のことであろう。従って、この記述順について賛成できる。しかし、日本語説明、英語説明共に、「根本中堂」の説明が多すぎると感じられる。「根本中堂」を表題とした独立した案内板を設置するべきと思われる。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。「二条城」に合わせ、当該観光地の名称を文頭に置く。福島(2015.7)、(2015.9)に従い、“ji”が“temple”を意味することを明示し、「延暦寺」を“**the Enryaku-ji [-temple]**”と表記する。そして、“**The Enryaku-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with....**”と、当該観光地の名称を文頭に置く。後ろの“for the benefit of all of mankind”を“**for the benefit of people all over the world**”と、より平明にする。

The Enryaku-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto (Kyoto, Uji and Otsu Cities), in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

「日本仏教のさまざまな宗派の開祖を育てた寺院」ということが、延暦寺の「売り」である。“—The Temple That Produced Numerous Great Monks Who Founded Important Japanese Buddhist Sects—”を本文の前に、副題として挙げる。

本文について検討を加える。部分的に情報を削減、追加する。

英語説明の原文の第一段落は、2文から成る。この部分を日本語説明では「延暦寺は、日本に天台宗（てんだいしゅう）を伝えた最澄（さいちょう）が、平安京の鬼門鎮護のために建立した比叡山寺に始まり、後に法然（ほうねん）、栄西（えいさい）、親鸞（しんらん）、道元（どうげん）、日蓮（にちれん）ら、日本の仏教各派の始祖となった高僧を世に送り出した、修行の寺です。」と、1文で記している。日本語説明は、長文ではあるがそれほど不自然には感じられない。これをそのまま、英語訳した場合、仮にセミコロンなどを使用したとしても、内容が異なることを1つの文に押し込んだ「不自然な文」となるであろう。従って、天津市の英語説明では原文1と原文2に分けていられる。

原文1について、「北東の厄から京都鎮護のため最澄により創建された。」、そして「もとは比叡山寺として知られていた。」という内容である。「比叡山」で思い当たることは、比叡山が高野山、恐山とともに現在日本三大霊山と呼ばれていることである。さらに文を追加し、比叡山寺の名前の由来を絡めて「日本三大霊山」についても触れ、“It was originally known as the *Hiei-zan* [-mountain] Temple, because of the name of the mountain where the temple is located. *Hiei-zan* is said to be one of the three *Rei-zan* (Holy Mountains) in Japan, together with *Kouya-san* [-mountain], where the *Kougoubu-ji* is located, and *Osore-zan*, where the *Osore-zan Bodai-ji* is located.”とすることを提案する。そして、この部分は段落を分ける。原文2について、「高僧を輩出した」ということで内容が理解できると思われるので、“developed into a center of monastic discipline that”は削除する。

第二段落の原文3について、「10世紀後期には... 興隆していました。」「10世紀後期までには... になっていた。」のように、動詞に“had become”と完了相を加えた方が、“By”に導かれる副詞句に相応しいと思われる。“configured much as they are today”を“configured almost the same way as today”と平明にする。原文3では具体的な伽藍配置まで1文中で記しているが、本稿では文を分け、“By the latter half of the 10th century, the *Enryaku-ji* had become a flourishing temple, with its temple buildings configured almost the same way as today. They are centered around three principal areas known as the *Tou-tou*, *Sai-tou* and *Yokawa* areas.”とする。原文4について、「何回も火事があったが、その都度再建された。」「The temple was burnt down on several occasions thereafter, but was rebuilt each time.”と簡略化する。1571年の「(織田信長による) 焼き討ち」の記述は削除する。

本文第三段落の原文5から原文9は、「根本中堂」の詳しい説明である。詳しい説明は、「根本中堂」という表題の、独立した案内板を設置するべきであろう。東塔地域には、有名な建造物として、重要文化財の「大講堂」が存在する。この段落には、“The *Konpon-chuudou*, originally constructed by Saichou in 788 and reconstructed in 1644, is...”, “The *Dai-koudou*, relocated and reconstructed from the Sakamoto district after the old building was burnt down in 1956, has always been used....”と「根本中堂」と「大講堂」の概略を追加する。

第四段落原文10の“and these imbue...”を平明に“and evoke the atmosphere of that period.”とする。

「延暦寺」の、加筆・修正案を加えた「世界遺産登録」「本文」の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。画像 4 を“*Konpon-chuudou (main hall)*”として加えるのがよいと思われる。本文の修正案の語数は副題を含め 270 語である。

福島(2017.9)で提案した「一般観光客が読む気を失くさせない、多くても 250 語程度」をやや超過してしまった。大津市作成のものには記載されていない重要事項である「日本三霊山」の情報を追加したことによる。しかし、原文の 317 語からかなり削減している。

The *Enryaku-ji* [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto (Kyoto, Uji and Otsu Cities), in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

—The Temple That Produced Numerous Great Monks Who Founded Important Japanese Buddhist Sects—

The *Enryaku-ji* [-temple] was built by Saichou, the founder of the *Tendai-shuu* [-sect] of Buddhism, as a temple to guard the *Heian-kyou* [Capital] against the negative influences thought to enter from the northeast. It was originally known as the *Hiei-zan* [-mountain] Temple, because of the name of the mountain where the temple is located. *Hiei-zan* is said to be one of the three *Rei-zan* (Holy Mountains) in Japan, together with *Kouya-san* [-mountain], where the *Kougoubu-ji* is located, and *Osore-zan*, where the *Osore-zan Bodai-ji* is located.

The *Enryaku-ji* produced numerous great monks who founded important Japanese Buddhist sects, such as Hounen, Eisai, Shinran, Dougen, and Nichiren.

By the latter half of the 10th century, the *Enryaku-ji* had become a flourishing temple, with its temple buildings configured almost the same way as today. They are centered around three principal areas known as the *Tou-tou*, *Sai-tou* and *Yokawa* areas. The temple was burnt down on several occasions thereafter, but was rebuilt each time.

Konpon-chuudou (main hall)



The *Tou-tou* area contains the *Konpon-chuudou* (designated as a national treasure), and the *Dai-koudou* (designated as an important cultural property). The *Konpon-chuudou*, originally constructed by Saichou in 788 and reconstructed in 1644, is the main hall for the entire temple complex. The *Dai-koudou*, relocated and reconstructed from the Sakamoto district after the old building was burnt down in 1956, has always been used by the Buddhist priests to have debates to deepen their studies.

The temple's three areas contain numerous other buildings dating as late as the 17th century, and evoke the atmosphere of that period.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17,1994.

Otsu City

前述したが、勿論、英語説明に合わせ、日本語説明も加筆修正するべきと思われるが、原稿枚数の制限のため、本稿では省略する。

2. 3 天橋立

6



7



画像6は2014年4月29日、画像7は2016年12月25日に本稿執筆者が撮影したものである。画像6は、文殊山公園の「ビューランド」からの眺めである。北方の成相山の「傘松公園」からの眺めが最高と言われるが、鉄道の便からしても、一般観光客の多くは「ビューランド」からの「天橋立」の眺めを楽しむ。「天橋立」の典型的な眺めとされている。砂洲の松林が龍のように見える。手前の砂洲の直前には「文殊堂」で有名な「知恩寺」が存在し、砂洲を渡ろうとする観光客は必ず立ち寄る。「日本三景」の一つであり、京都市観光と絡めて日本人のみならず、多くの外国人観光客が訪れる。注意事項など一般的な英語案内板の数は多いが、奇妙なことに「天橋立」という表題の英語総合案内板が存在しない。日本語のものも存在しない。画像7の「飛龍観」が、「天橋立」の「総合案内板」に近いと言えよう。

画像7の案内板は、リフトやモノレールを利用し到着する「ビューランド」の入口付近に存在する。多くの観光客が目にする。この案内板はほとんどが日本語説明である。日本語説明は縦書きである。「飛龍観(ひりゅうかん)」を表題とし、第一段落では、「昔文殊の地形は山鼻がきりたって」、第二段落では、「ここ、ビューランドは、その当時の山路の跡で... (昔旅人は) 歌や詩をつくり絵画を描いた。」と、マニアではない一般観光客にはそれほど興味が持たれない内容が書かれている。第三段落のみ、一般観光客にも興味深い内容であろう。英語説明は第三段落に平行させていると思われるもののみが存在する。第三段落の、日本語説明、英語説明は以下の通りである。

天橋立の「股のぞき」のことは昔より誰れゆうとなく巷に流れたもので今日では全国的な愛称となっている。各所に設けてある「股のぞき台」の上でまたをひらき頭を深くさげていると、だんだ

ん頭に血が充血して目が廻るようになり、まさに天橋立が幻想的に紫紺の空につづくようになる。
皆様も、是非一度ごらんになって下さい。

※アンダーラインは本稿執筆者による。

The sky and the land is upside down and the pine trees is look like floating in the sky. If you turn your back to amanohashidate and bend over the view between your legs this position is called "MATANOZOKI". In viewland you can do MATANOZOKI which you can image the flying dragon up in the sky, and that scene is called "HIRYUKAN".

日本語説明について、「誰ゆうとなく」や平仮名、漢字の使用などについて問題がある。

英語説明の第一文の "...is look like..." は明らかな文法的誤りであり、また、“floating” は“floating”の綴りミスであるなど問題が多すぎる。日本語の英文字表記、外国語が構成素である「ビューランド」の表記^{註2)}などこれまでの提案に従う。原文を以下のようにすることを提案する。「頭に血が充血して目が廻るようになり」は、英文には含まれていない。必要ないと思われる。

When you look through your legs the sky and the land appear upside down and the pine trees look as if they are floating in the sky. This view through your legs is called the *Mata-nozoki*.

From the *View Land* (observatory-cum-amusement park) you can do the *Mata-nozoki*. You can imagine a flying dragon up in the sky. That image is called the *Hiryuu-kan*.

尚、ビューランドで日本語版と英語版のリーフレットが入手可能である。案内板のものと異なり、リーフレットのは、内容面も一般観光客に抵抗を感じさせないように思え、問題が感じられない。

以下日本語のリーフレットと英語のリーフレットの内容を挙げる。それぞれのリーフレットには、「日本三景 ... 天橋立」、「One of the most scenic spots in Japan... Ama no Hashidate」が左下に大きな文字で表記されている。日本語のものは縦書きである。作成者は、「天橋立」、「Ama no Hashidate」を表題にすることを望んだのかも知れないと思われる。

飛龍観

龍が天に舞い上がる

日本三景天橋立は、宮津湾と阿蘇海に横たわる

約3.6kmにおよぶ砂嘴が造り上げた神秘の造形です。

砂嘴には約8千本のクロマツが生い茂ります。

その風景を天橋立ビューランド展望台で股のぞきして見ると、

龍が天に舞い上がるすがたに見え、それをたとえて

「飛龍観」と呼ぶようになりました。

青い海と空に解け合う翠の景色は訪れる人々を魅了してやみません。

天橋立ビューランドは眺めを楽しむ展望所のある遊園地です。

(※以下は横書きになっている。)

日本三景 天橋立・大江山国定公園

天橋立ビューランド

天橋立

Hiryukan

Dragon climbing into the sky

Ama no Hashidate, one of the three most scenic spots in Japan, is a mysterious place formed by the sand spit extending about 3.6km in the Miyazu Bay and the Aso Sea.

The sand spit is covered by approx. 8,000 Japanese black pines.

When it is viewed in the Mata-nozoki way at the viewing

platform in Ama no Hashidate View Land, the view looks like a dragon climbing into the sky. That's why the view from here

is called "Hiryukan (view of the flying dragon)".

The blue-green scenery of the harmony of the blue sky and the sea never stops attracting visitors.

Ama no Hashidate View Land is an amusement park with a viewing platform with wonderful views.

One of the three most scenic spots in Japan

Ama no Hashidate-Oeyama Quasi-National Park

Ama no Hashidate View Land

Ama no Hashidate

日本語と英語のリーフレット、双方共に、「この展望所から天橋立の眺めを楽しめます」の内容であり、「天橋立」を表題にしてもよいように思える。日本語のリーフレットと英語のリーフレットは完全に内容が一致する。アンダーライン部について、当地の地形は「砂嘴」ではなく、「砂洲」と思われる。「砂洲」とし英語も“sandbar”とするべきであろう。これ以外、英語の記述は、画像7の「案内板」のものとは比べ、表記面を除き特に問題は見られない。

英語のリーフレットは副題を含め本文は123語である。語数、内容の平明さからしても、これらに説明を追加し、「案内板」として設置するべきであると思われる。画像6と「股のぞき台」の画像8を添付するべきであろう。

8



以上の案内板やリーフレットを参考にして、天橋立について、「位置、交通の便」、「観光地としての意義（日本三景の一つ）」、「（日本三松原の一つであること）」、「名称の由来」、「股のぞき」、「飛

龍観」の順に記述する。250語以内になるようにする。尚、「砂洲」を一般的な“sandbar”を使用する。「股のぞき」を“the *Mata-nozoki (gazing between your thighs)*”、「股のぞき台」を“the *Mata-nozoki dai (low bench)*”としているなど、リーフレットのものとは異なるものもある。

提案した案内板の英語について概略する。

表題について、砂洲である「天橋立」の直訳的意味を(“ ”)内で説明し、“*Ama-no-hashidate [Sandbar] (“ Bridge Spanning Heaven”)*”とする。

副題について、「売り」である「ビューランド」での「飛龍観」について、“**Please Enjoy “The Flying Dragon” Climbing into the Sky!**”を挙げる。

第一段落では、「地理上の位置、交通の便」を挙げる。天橋立は鉄道で京都から2時間6分、大阪から2時間20分である。“...is within 2.4 hours of Kyoto Station or Osaka Station by train.”とした。

第二段落では、「観光地としての意義（日本三景の一つであること）」に関連し、「他の日本三景、天橋立の地形上の特徴など」を挙げる。

第三段落では、「(それほど知られていない)日本三松原の一つであること」を他の松原も挙げ記述する。

第四段落で、名称の由来について、“*Ama-no-hashidate (“bridge spanning heaven”) was called so because the sandbar with its beautiful grove of pine trees evokes that image.*”を挙げる。この福島(2017.1)で提案した「直訳的」説明を加えたもの“*Ama-no-hashidate (“bridge spanning heaven”)*”を表題にする。

第五段落では、「股のぞき」による「飛龍観」について記述する。「股のぞき」を“the *Mata-nozoki (gazing between your thighs)*”^{註3)}とする。英語を使用した施設名、「ビューランド」を“the *Viewland (observatory-cum-amusement park)*”とする。「飛龍観」を“the *Hiryuu-kan (“flying-dragon watching”)*”とし、副題でも使用する。

副題を含め、語数は223語に収めた。

Ama-no-hashidate [Sandbar] (“ Bridge Spanning Heaven”)

Please Enjoy “the Flying Dragon” Climbing into the Sky!

Ama-no-hashidate, located in Miyadzu[du]-wan [-bay] in northern Kyoto Prefecture, is within 2.4 hours of Kyoto Station or Osaka Station by train.

Ama-no-hashidate is regarded as one of the three most scenic spots in Japan, together with Itsukushima [-island] in Hiroshima Prefecture and Matsu-shima [-islands] in Miyagi Prefecture. It is a long and narrow sandbar, about 3km long and 40 to 100m wide, which stretches northeast, from the Monju district to the Ejiri district in Miyadzu[du] City.

Together with Miho-no-matsubara in Shizuoka Prefecture and Niji-no-matsubara in Saga Prefecture, Ama-no-hashidate is also known as one of the three most famous pine tree groves. The sandbar has more than 6,000 pine trees growing on it.

Ama-no-hashidate (“bridge spanning heaven”) was called so because the sandbar with its beautiful grove of pine trees evokes that image.

You can try the *Mata-nozoki* (gazing between your thighs) here in the *Viewland* (observatory-cum-amusement park) at the top of *Monju-san* [-mountain]. (Low benches exclusively for the *Mata-nozoki* are available for use.) Please turn your back to *Ama-no-hashidate*, bend over, and look at the view between your thighs. You may be able to enjoy the scenery that looks like a dragon flying up in the sky. So the *Mata-nozoki* is also called the *Hiryuu-kan* (“flying-dragon watching”)

General View of *Ama-no-hashidate*



Mata-nozoki on the *Mata-nozoki* bench



英語説明に合わせた日本語説明を挙げるべきと思われるが、原稿枚数の制限のため、本稿では省略する。

2. 4 鳥取砂丘

9



10



画像9は、「鳥取砂丘」の代表的な光景として、報道などでも頻繁に登場する。多くの観光客はこの景色だけを見て、記念写真を撮り、「鳥取砂丘をみた」と満足する。海を背景に「馬の背」と呼ばれる砂丘の一部である丘が見える。丘の下には、「オアシス」と呼ばれる水溜りが見られる。これは、雨量その他により水量が変化する。これらを見つつ、「観光ラクダ」にゆられた後、国道沿いの土産店で買い物をすれば、「鳥取砂丘に来た」という実感がさらに増すであろう。10の案内板は、駐車場

から 9 の景色が見え始めるところに存在する。尚、画像 9、10 は 2016 年 12 月 25 日に執筆者が撮影した画像である。

画像 10 は、「鳥取砂丘」という表題の総合案内板である。しかし、以下の日本語説明だけのものである。「鳥取砂丘」のみ文字上に振り仮名が振られている。本稿では（ ）で表す。

国指定天然記念物

鳥取砂丘（とっとりさきゅう）（指定年月日 昭和 30 年 2 月 3 日）

中国山地の砂が千代川によって運ばれ、潮流と波風のはたらきで堆積した海岸砂丘である。鳥取市の北に広がる東西 16km、南北 2km の砂丘地形のうち、多鯨ヶ池北側から西方のおよそ 146ha の範囲が国の天然記念物となっている。

面積や起伏など砂丘自体の規模の大きさに加え、風紋など地表面の変化や凹地地形（スリバチ）といった砂丘地一般にみられる現象においても、特有の、変化に富んだ形態をしめすのが本砂丘の特色である。

また、コウボウムギやハマゴウ、カワハンミョウなどの動植物からなる独特の生態系をもつ。これは風によって砂が溜まったり動かされたりといった環境の変動に適応した砂丘地形ならではのものである。

地質的な面だけではなく、生息する生物という観点からみても貴重な天然記念物である。

平成 27 年 3 月 鳥取県教育委員会

11



12



10 の総合案内板などを参考に内容を追加し、英語総合案内板を提案する。

厳密な天然記念物に指定されている面積については、一般観光客には不要であろう。従って、「多鯨ヶ池北側から西方のおよそ 146ha の範囲が国の天然記念物となっている。」は省略する。

英語説明が見られるので、11、12 の案内板も参考にした。それぞれ 10 の近くに存在した。しかし、双方共、「鳥取砂丘」の英語の記述量は少なかった。

11 は「山陰海岸国立公園」“SAN-IN KAIGAN NATIONAL PARK” という表題の案内板であるが、「鳥取砂丘」についての記述は「... 鳥取砂丘や小天橋に代表される海岸砂丘や砂洲の地形も多く見られます。」“...There are many coastal sand dunes and sandbars best represented by the Tottori Sand Dunes and Shotenkyo Sandspit.” のみであった。

12 には、「鳥取砂丘」“Tottori Sand Dunes” の記述が存在するが、砂丘の誕生についての地質学的説明しか見られない。しかし、「馬の背」や「オアシス」などの地図上の記載は有用である。

現地に英語の記述がほとんど見られない。また 10 の日本語案内板も情報量が不足していると思われるので、石井 (2009) や Wikipedia (2017.9.20 参照) の日本語説明も参考にし、英語総合案内板の作成を試みた。

石井 (2009)pp.206 の「鳥取砂丘」では以下の通り記述されている。赤字の部分の情報を本稿で提案する英文に含める。

鳥取砂丘は、鳥取市の日本海海岸に広がる日本最大の砂丘です。南北 2.4km、東西 16km で、山陰海岸国立公園の特別保護区に指定されています。1955 年に国の天然記念物に選定され、2007 年には日本の地質百選に選ばれました。

Wikipedia(2017.9.20 参照) の記述は以下の通りである。赤字の部分の情報を提案する英文に含める。

鳥取砂丘（とっとりさきゅう）は、鳥取県鳥取市の日本海海岸に広がる広大な砂礫地で、代表的な海岸砂丘。山陰海岸国立公園の特別保護地区に指定されており、南北 2.4km、東西 16km に広がる。観光可能な砂丘としては日本最大で、一般に立ち入れない場所も含めると青森県の猿ヶ森砂丘に次ぐ規模を誇る。1955 年（昭和 30 年）に国の天然記念物に、2007 年（平成 19 年）に日本の地質百選に選定され、伯耆大山と並んで鳥取県のシンボルの一つとされている。

日本三大砂丘の 1 つだが、その他の 2 つについては諸説がある。

画像 10、11、12 の案内板、そして、以上の石井 (2009) や Wikipedia (2017.9.20 参照) を参考にして、さらに、『ブリタニカ国際大百科事典』の内容を加え、250 語以内で英語説明の作成を試みた。

表題について、“*Tottori-sakyuu (sand dunes)*”と「鳥取砂丘」という日本語を英語表記し、() 内で英語説明する。3 つの砂丘からなっていることから“*sand dunes*”と複数にする。

副題として、第一段落に記してある「観光客が立ち入り可能な日本最大の砂丘」“*The Largest Sand-dune Area in Japan That Tourists Are Allowed to Enter*”を挙げる。ここで、“*Sand Dunes*”とすると「総称」としての「鳥取砂丘」、ではなく「複数の砂丘」と解される可能性があるので、“*Sand-dune Area*”とする。

第一段落について、「東西」をより詳しくし、「細川」“*Hoso-kawa [-river]*”と「白兎海岸」“*Hakuto-kaigan [-seashore]*”を加える。一般にあまり知られていない、「鳥取砂丘」が「浜坂砂丘」、「湖山砂丘」、「福部砂丘」という 3 つの砂丘の総称であることを記す。尚、東西・南北の距離は、石井 (2009) などに準じる。

第二段落で、「鳥取砂丘の誕生」についての地質学的説明をあげる。概略説明にとどめる。

第三段落で、鳥取砂丘に特徴的な「起伏」、「風紋」などについて概略する。

第四段落では、「コウボウやハマゴウなど植物やカワハンミョウなど昆虫からなる生態系、農産物など」を概略する。

第五段落では、「観光地の地位」、「1955 年に国の天然記念物に、2007 年に日本の地質百選に選定

された」の英語を入れる。

副題を含め214語に収めた。

「馬の背」、「オアシス」について、“*Uma-no-se* (hill meaning “horse’s back”), *Oashisu* (pond meaning “oasis”)”とし、画像9を添付する。“*Oashisu* (pond meaning “Oasis”)”の表記について、福島(2015.7) p.23に準じ“*Oasis* [pond]”を考えたが、“oasis”の発音が「オアシス」と違いすぎるので避けた。

Tottori-sakyuu (sand dunes)

—The Largest Sand-dune Area in Japan That Tourists Are Allowed to Enter—

Tottori-sakyuu (sand dunes), spreading 2.4km from north to south and 16km from east, *Hoso-kawa* [-river], to west, *Hakuto-kaigan* [-seashore], are located near Tottori City in Tottori Prefecture. *Tottori-sakuu* is a general name for the three *sakyuu*, *Hamasaka-sakyuu*, *Kosan-sakyuu*, and *Fukube-sakyuu*. *Hamasaka-sakyuu* is famous for an especially magnificent view, and its highest point is 92m. *Tottori-sakyuu* is the largest sand-dune area in Japan that tourists are allowed to visit.

It is geologically explained that the quartz sand originally carried by *Sendai-gawa* [-river] was carried inland again and formed into the dunes by the waves and the northwest wind in winter.

There are sunken places in the dunes, forming undulating planes, and water wells up in some places. We also find peculiar wind-wrought patterns in the sands shaped by the wind exceeding 5-6m per second.

In *Tottori-sakyuu*, such plants as *Carex kobomugi* and *Vitex rotundifolia* grow in profusion on the dunes. Such insects as Japanese tiger beetles, etc. inhabit the dunes. Tobacco, grapes, watermelons, *rakkyou* (Japanese scallions), and tulips are grown in cultivated fields.

It is designated a special nature reserve of San’ in Coast National Park. It was also designated as a natural monument in 1955, and as one of the 100 precious geological properties of Japan in 2007.

Uma-no-se (hill meaning “horse’s back”),
Oashisu (pond meaning “oasis”)



英語説明に合わせた日本語説明を挙げるべきと思われるが、原稿枚数の制限のため、本稿では省略する。

3. おわりに

以上、「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」に挙げられている「二条城」、「延暦寺」の「英

語総合案内板」に相当するものについて加筆・修正案を挙げ、そして、「天橋立」、「鳥取砂丘」の「英語総合案内板」の提案を行った。

「二条城」、「延暦寺」のものは文体や構成がある程度共通して充実していた。しかし、説明が偏っている部分があり削除を行い、その分足りない情報を追加する修正案を挙げた。

京都は別として、地方で、「英語案内板が充実していない」と言われるのをよく耳にする。このことは、注意事項などの「一般的案内板」ではなく、「総合案内板」についてのものと思われる。「天橋立」や「鳥取砂丘」ほどの観光地に英語総合案内板に相当するものが見られなかったことには驚かされた。情報を追加しながらこれを提案した。但し、福島 (2015.9) などの提案に準じ、語数を 250 語程度に収めることにした。

英語説明に合わせた日本語説明も提案するべきであるが、原稿枚数が制限されているので、本稿では省略する。

定冠詞の有無について、「建造物」である「二条城」や「延暦寺」は “*the Nijou-jou*”、“*the Enryaku-ji*” と定冠詞を使用した。一方地名である「天橋立」、「鳥取砂丘」は “*Ama-no-hashidate*”、“*Tottori-sakyuu*” と定冠詞を使用しなかった。福島 (2016.7) では、山、湖、谷の名称についても「地名」として考え、“*Fuji-san*”、“*Ashino-ko*”、“*Oowaku-dani*” と定冠詞を使用していない。本稿では、河川名にも、“*Sendai-gawa*” と定冠詞を使用しないこととした。

イタリック体の使用について、「鳥取砂丘」の「鳥取」は構成素として使用されている。このような場合、イタリック体を使用した。県名、市名として単独で使用される場合は “*Tottori*” とし、イタリック体を使用しない。

尚、本稿では、日本語化した英語の表記法について、新しい提案を行った。福島 (2015.7) では、「江の島シーキャンドル」を “*the Enoshima Sea Candle (lighthouse observatory)*” と表記することを提案した。鳥取砂丘内の「オアシス」について、“*Oasis*” は日本語の発音と異なり過ぎるので、“*the Oasis [pond]*” とはせずに、“*the Oashisu (pond meaning “oasis”)*” とすることを提案した。(※それぞれ、文中では定冠詞を “*the*” を使用する。)

本論文執筆にあたり、これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことや目立つことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどとは、異なり、語数に制約がある。また、現在でも、地方では外国語案内板の数は少ないようである。読売新聞 (2016.11.1) でも、訪日観光客が増加しているが、地方では外国語案内板の数が少ない旨、述べている。
- 2) 福島 (2015.7) p.23 では、神奈川県江の島の「江の島シーキャンドル」を “*Enoshima Sea Candle (lighthouse observatory)*” と表記することを提案している。但し、文中で使用する場合は “*the Enoshima Sea Candle (lighthouse observatory)*” と定冠詞が入る。
- 3) 「股のぞき」は、“*between*” を用いた場合、画像 7 の案内板中のように “*...between one’s legs*”

とすることが多いが、本稿では“...between one's thighs”とする。

参考文献

- ブリタニカ・ジャパン編 (2013)『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京：ブリタニカ・ジャパン
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人 (2011.1)「観光英語 (1): 国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2011.7)「観光英語 (2): 国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2012.7)「観光英語 (3): 重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2013.1)「観光英語 (4): 重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.1)「観光英語 (5): 重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.7)「観光英語 (6): 世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.1)「観光英語 (7): 日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.7)「観光英語 (8): 神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.9)「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第21号、東京：日本実用英語学会
- (2016.1)「観光英語 (9): 神奈川県観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第54号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2016.7)「観光英語 (10): 神奈川県と静岡県の観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第55号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.1)「観光英語 (11): 京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第56号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.7)「観光英語 (12): 京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語」『情報研究』第57号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2017.9)「国内観光地の総合案内板の英語についての問題点: 文法、記述順を中心に」『日本実用英語学会論叢』第23号、東京：日本実用英語学会
- 市川繁治郎他編 (福島一人他執筆) (1995)『新編英和活用大辞典』、東京：研究社
- 石井隆之 (2009)『日本の都道府県の知識と英語を身につける』、東京：ベレ書房
- 京都府ホームページ「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」(オンライン)、入手先 (<http://www.pref.kyoto.jp/isan/>) (2016.07.05 参照)
- 国土交通省 観光庁 (2014.3)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドラ

福島 一人：観光英語（13）：観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘に見られる案内板の英語

イン」（オンライン）、入手先（<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>）（2016.03.03 参照）
文部科学省 「ローマ字のつづり方」（オンライン）、入手先（http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html）（2014.10.15 参照）
NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」（オンライン）、入手先（<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>）（2014.10.15 参照）
新村出編（2008）『広辞苑』第6版、東京：岩波書店
スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編（1999）『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館
柴田正昭（2010）『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂
篠田義明（1989）『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社
———（2014）『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』東京：南雲堂
竹林 滋他編（2002）『研究社 新英和大辞典』第6版、東京：研究社
渡邊敏郎他編（2003）『研究社 新和英大辞典』第5版、東京：研究社
Wikipedia, the free encyclopedia. 「鳥取砂丘」 Retrieved September 20, 2017, from <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B3%A5%E5%8F%96%E7%A0%82%E4%B8%98>